

環境経営方針

カシオは事業を通じて、地球温暖化問題、資源エネルギー問題の解決に取り組んでいきます。
「地球の危機」を克服するために、事業活動のすべての分野において解決策の提案と実行を進めていきます。

温暖化防止に向けた国内外の動向

2008年7月7日～9日に行われた洞爺湖サミットの結果を受け、日本では、同年7月末、日本の2050年に向けた温暖化防止の取り組みが明記された「低炭素社会づくり行動計画」が閣議決定されました。これには、長期目標として世界全体で温室効果ガスを半減させるため日本は現状から60～80%の削減を行うことが示されています。そのため今後10年～20年の間に世界全体の温室効果ガス排出量をピークアウトさせることが重要となり、具体的な施策として、以下の内容が推進されることとなります。

<p>I 我が国の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 次期枠組みの合意づくり 国別総量目標の設定 世界各国の取り組みに対する支援 (1)セクター別アプローチ (2)クールアース・パートナーシップ (3)多国間基金の創設 	<p>III 国全体を低炭素化へ動かす仕組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 排出量取引 税制（税制のグリーン化、地球環境税） 見える化（カーボン・フットプリント、カーボンオフセット、炭素会計）
<p>II 革新的技術開発と既存先進技術の普及</p> <ul style="list-style-type: none"> 革新的技術開発のロードマップの着実な実行 太陽光発電導入量の大幅拡大 白熱電球の省エネランプへの切り替え 省エネ家電（テレビ、給湯器、エアコン、冷蔵庫）の導入の加速 省エネ住宅・ビル、200年住宅の普及 	<ul style="list-style-type: none"> 石炭利用の高度化 次世代自動車の導入 原子力の推進

このうち、産業別に国を超えて取り組む「セクター別アプローチ」に関しては、今年中に国別の総量目標が設定されます。それが、工業会ごとの目標に展開され、その目標に沿って、カシオも新しい目標を立てる必要性が出てきます。また、カーボン・フットプリント^{※1}の取り組みが実現されると、省エネ、省資源といった環境技術に勝る企業が市場で支持されることになり、逆に他社より多くCO₂を排出した企業は市場からの撤退を余儀なくされることとなります。

米国および世界全体の環境対策の動向

一方米国では、2008年に就任したオバマ大統領が、既に以下の5項目のエネルギー政策を発表し（ニュー・エナジー・フォー・アメリカ^{※2}）、今後10年で15兆円を投資するとしています。

- 500万人の雇用を生む
- 2015年までに100万台のハイブリッド車を走らせる
- 風力や太陽光、次世代のバイオ燃料による自然エネルギー電力使用率を2012年までに10%、2025年までに25%にする
- 温室効果ガスを2050年までに1990年比で80%削減する
- 輸入石油を減らす

注目すべき点は、温室効果ガスの削減が具体的な数字目標として盛り込まれているところで、米国の2050年に向けた地球温暖化防止へのリーダーシップが期待されます。

世界全体での枠組みについては、2009年12月に開催予定のCOP15（Conference of Parties 15）にて合意を目指すこととなりますが、先進国間だけでなく、経済発展途上国との利害調整が課題になることが予想されます。

※1 LCA(ライフサイクルアセスメント)の手法を用いて、商品が生まれてから廃棄されるまでに必要なCO₂の量を消費者が商品選択のひとつとして利用できるよう、パッケージに表示するもの。
※2 一般的には、グリーン・ニューディール政策、グリーン・ジョブ政策と呼ばれる。

低炭素社会の構築に向けた環境経営方針

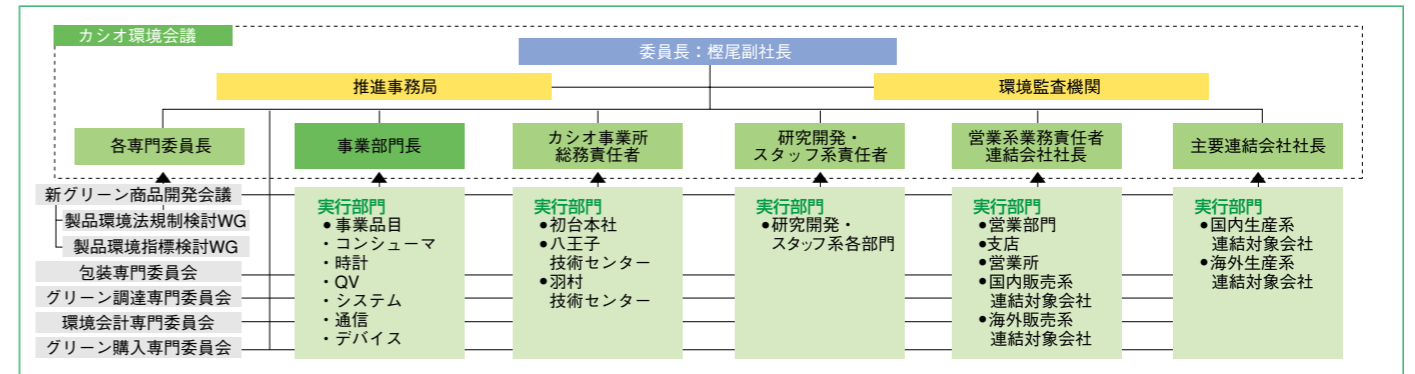
こうした世界的な動向を踏まえ、カシオは、2009年度以降、以下の方針に基づき環境経営に取り組んでいきます。

- 一部の環境先進企業は、既に2050年に向けた環境経営方針を打ち出しています。いずれも地球温暖化防止対策として、環境負荷を1/8～1/10に低減する大幅削減の数値目標を掲げており、カシオとしても2050年に向けた超長期目標の立案に向けて、取り組みをスタートすべき時期にきています。環境センターを中心として、カシオとしての方向性を検討していきます。
- カシオグループ全体の中で、環境パフォーマンスデータの取得範囲を、カシオ自社排出分と委託先からの排出分とを分けてとらえ、総枠を取得するため、まだ未取得の部分については調査を進めていきます。
- 既に国内外のオフィス系の拠点では、CO₂排出量の削減を原単位ではなく総量削減を目標として活動していますが、生産拠点についても、現状の原単位による削減目標から総量削減に切り替えていきます。生産拠点における総量削減は難易度が高いですが、同業の企業各社も総量削減方針を打ち出しており、カシオとしてもこの課題に取り組んでいきます。
- デバイス部門のTFT液晶製造過程で使用しているSF₆は、使用量はさほど多くはないものの、温暖化係数がCO₂の23,900倍と非常に大きいため、廃止または削減に向けた対応を行っていきます。既に実験室レベルでは、F₂ガスへの代替が可能であることが確認できており、量産化ラインへの移行に向けて検討を進めていきます。
- カシオは、小型、軽量、薄型、省電力技術をコア・コンピタンスとして独創的な商品開発を行ってききましたが、それらカシオ製品や製品製造にかかわる環境負荷改善、環境経営レベルの向上を計測でき、今後の環境行動目標値として設定ができるようなカシオ独自の指標開発を行います。
- 低炭素社会実現のため、日本は得意とする環境技術で貢献することができます。カシオ製品も、ペーパーレスを実現しているデータプロジェクトや電子辞書はLCA評価で貢献が確認できています。今後もグリーンオフィスを構成する機器を通じてペーパーレス、業務効率の向上や省エネ・省資源に貢献していきます。
- 2001年6月にグリーン商品開発をスタートし、既に8年が経過しました。2009年度からは「グリーンスター商品」として、小型、軽量、薄型、省電力技術をさらに強化し、販売促進にも活用できるよう環境シンボルマークの表示や、カーボン・フットプリント表示を積極的に検討していく計画です。

2009年度のカシオの環境経営は、「低炭素社会実現のための環境経営」が、重要な位置付けとなります。これまで進めてきた環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」を進化させ、より経営レベルで事業に貢献できるよう積極的な環境への取り組みを行っていきます。

環境経営体制

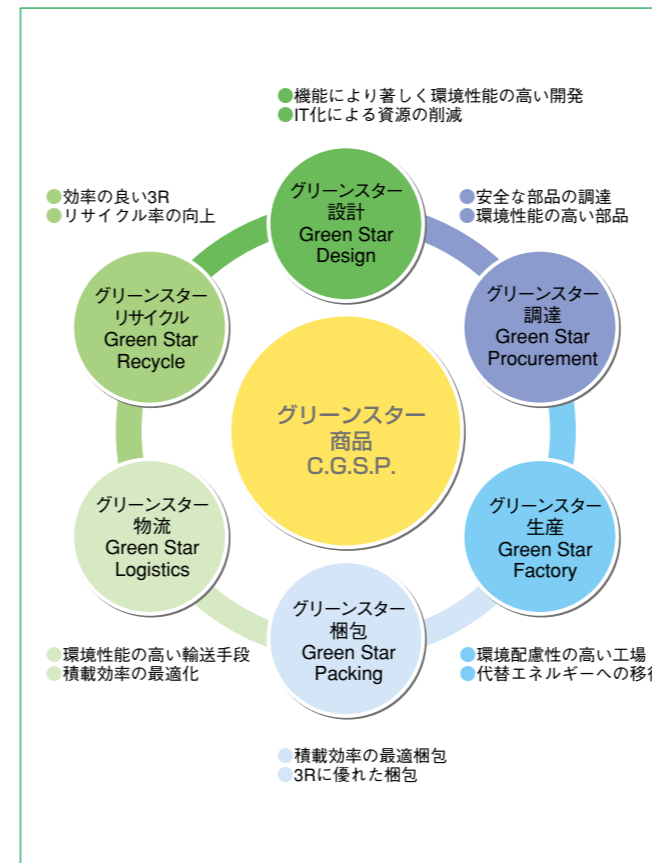
■カシオ環境保全委員会運営体制



カシオグリーンスターコンセプト

カシオは、商品を提供する際の社会的責任として持続可能な社会づくりに向けて、商品のライフサイクル各ステージごとの取り組みを強化し、全ステージで環境に与える影響を抑える「グリーンスターコンセプト」を2009年度より掲げ、活動を開始しました。

■カシオグリーンスターコンセプトイメージ図



カシオグリーンスター商品(環境適合商品)

「カシオグリーンプロダクツ (C.G.P.) 活動」では、カシオ環境ボランティアプランに基づき、商品のライフサイクル全体を通じて環境に与える負荷を最小限に抑えるために、新商品を対象として「企画・デザイン・設計」の各段階でその影響を事前評価（製品環境アセスメント）しています。その結果をもとに、環境に優れた商品・サービスを「カシオグリーン商品」として認定してきました。2008年度までにそれらの一定の成果が出たことを受け、2009年度からはカシオグリーン商品の中でも特に優れており、持続可能な社会の実現に向けた新たなトレンドをつくる商品を、より厳しく、具体的な評価を経て「カシオグリーンスター商品」として認定します。

■アセスメント項目

<p>カシオグリーンスター商品 30%目標</p> <p>カシオグリーン商品</p>																																	
<p>■各商品の評価項目</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>グリーン商品評価</th> <th>グリーンスター商品評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1.再資源化の促進(材料表示)</td><td>1.使用時の消費電力を20%以上削減</td></tr> <tr><td>2.リサイクル設計</td><td>2.太陽電池使用とエコマーク取得</td></tr> <tr><td>3.単一素材部品への分離</td><td>3.太陽電池使用とロングライフ構造</td></tr> <tr><td>4.再資源化の向上</td><td>4.10年バッテリー搭載とロングライフ構造</td></tr> <tr><td>5.資源の減容化</td><td>5.本体体積で20%以上削減</td></tr> <tr><td>6.資源の減量化</td><td>6.重量で20%以上削減</td></tr> <tr><td>7.省エネ化</td><td>7.個装箱の小型化による積載率で20%以上削減</td></tr> <tr><td>8.化学物質の使用規制</td><td>8.再生プラスチック総重量比30%以上使用</td></tr> <tr><td>9.電池の再資源化</td><td>9.バイオプラスチックを25%以上使用</td></tr> <tr><td>10.電池のリサイクル表示</td><td>10.特定有害化学物質廃止(塩ビ)</td></tr> <tr><td>11.法規制準拠</td><td>11.LCA環境影響評価で従来比10%以上の改善</td></tr> <tr><td>12.単一分別・分解</td><td>12.製品環境効率で従来比10%以上の改善</td></tr> <tr><td>13.梱包材の使用規制</td><td>13.環境性能を著しく貢献する機能など</td></tr> <tr><td>14.自然環境保護</td><td>14.IT化による資源の削減に貢献できる機能</td></tr> <tr><td>●100点満点中90点以上</td><td>●グリーン商品基準を満たし、上記項目に該当ありの場合</td></tr> </tbody> </table>	グリーン商品評価	グリーンスター商品評価	1.再資源化の促進(材料表示)	1.使用時の消費電力を20%以上削減	2.リサイクル設計	2.太陽電池使用とエコマーク取得	3.単一素材部品への分離	3.太陽電池使用とロングライフ構造	4.再資源化の向上	4.10年バッテリー搭載とロングライフ構造	5.資源の減容化	5.本体体積で20%以上削減	6.資源の減量化	6.重量で20%以上削減	7.省エネ化	7.個装箱の小型化による積載率で20%以上削減	8.化学物質の使用規制	8.再生プラスチック総重量比30%以上使用	9.電池の再資源化	9.バイオプラスチックを25%以上使用	10.電池のリサイクル表示	10.特定有害化学物質廃止(塩ビ)	11.法規制準拠	11.LCA環境影響評価で従来比10%以上の改善	12.単一分別・分解	12.製品環境効率で従来比10%以上の改善	13.梱包材の使用規制	13.環境性能を著しく貢献する機能など	14.自然環境保護	14.IT化による資源の削減に貢献できる機能	●100点満点中90点以上	●グリーン商品基準を満たし、上記項目に該当ありの場合	<p>※ただし、一部品目でカシオグリーンスター認定基準に変動あり。 ※環境の変化に伴い定期的に基準を見直します。</p>
グリーン商品評価	グリーンスター商品評価																																
1.再資源化の促進(材料表示)	1.使用時の消費電力を20%以上削減																																
2.リサイクル設計	2.太陽電池使用とエコマーク取得																																
3.単一素材部品への分離	3.太陽電池使用とロングライフ構造																																
4.再資源化の向上	4.10年バッテリー搭載とロングライフ構造																																
5.資源の減容化	5.本体体積で20%以上削減																																
6.資源の減量化	6.重量で20%以上削減																																
7.省エネ化	7.個装箱の小型化による積載率で20%以上削減																																
8.化学物質の使用規制	8.再生プラスチック総重量比30%以上使用																																
9.電池の再資源化	9.バイオプラスチックを25%以上使用																																
10.電池のリサイクル表示	10.特定有害化学物質廃止(塩ビ)																																
11.法規制準拠	11.LCA環境影響評価で従来比10%以上の改善																																
12.単一分別・分解	12.製品環境効率で従来比10%以上の改善																																
13.梱包材の使用規制	13.環境性能を著しく貢献する機能など																																
14.自然環境保護	14.IT化による資源の削減に貢献できる機能																																
●100点満点中90点以上	●グリーン商品基準を満たし、上記項目に該当ありの場合																																